第 1 回 活躍プロジェクト 記録

開催日時：2025年7月28日（月）

13時半～15時

開催場所：多摩市役所西4会議室

当日の議事

- 1, 「活躍プロジェクト」の目的
- 2, 高齢者雇用と東京100年活躍ナビについての説明

～以下内容の要約～

○「活躍プロジェクト」の目的と目標に向けた現状の意見交換

プロジェクト立ち上げの目的は、高齢者が「自分の力を使って何か役に立ったり、前向きに生きていけるような」活動の場を増やし、提示すること。参加者からは、もしも新聞での取り組み共有や、「役割を持って人のために働くこと」が活躍のイメージとして挙げられ、認知症の方でも「やりたいことで輝き、役割を持って働ける」ことについても触れられた。

○高齢者の就労状況と「100年活躍ナビ」の紹介

▶高齢者就労の現状(ハローワークの視点から)

ハローワーク永山ワークプラザからは、高齢者の就労状況について具体的な事例を交えて説明があった。

- ①高齢者の利用者の増加: 永山ワークプラザの利用者の約7割が65歳以上。84歳でパートの仕事が決まった事例や、74歳で裏方の作業員として活躍している事例などが紹介された。
- ②「年齢ではない」という変化: 企業側も年齢ではなく、個人のやる気や経験を重視する傾向に変わりつつあるとのこと。
- ③継続雇用の拡大: 65歳までの継続雇用が企業のデフォルトになりつつあり、65歳以上の相談が圧倒的に増加している。
- ④ハローワークの役割: 仕事だけでなく、家庭の問題など、高齢求職者が抱える問題全体を解決するための道筋を示す役割も必要になってきていると説明されました。
- ⑤雇用保険の変更: 2027年からは雇用保険の加入条件が週20時間以上から週10時間以上に変更される予定で、被保険者が増える見込みとのこと。
- ⑥企業へのアプローチ: ハローワークとしては、助成金の案内などを通じて高齢者雇用の開拓を進めているものの、組織としての限界もある。

▶東京都「100年活躍ナビ」の紹介

東京都担当者および事務局から事業に関する説明があった。

- ①事業背景: 高齢者の8割が社会参加意欲があるにも関わらず、実際に参加できているのは半数以下という現状に対し、「きっかけがない」「情報がない」という課題を解決するために立ち上げられた。
- ②目的: 元気な高齢者が「いつまでも元気に」活躍できる社会「アクティブ長寿社会」の実現を目指している。
- ③情報の集約: イベント、趣味活動、ボランティア活動などの情報を団体が自ら登録し、一元的に掲載。簡単な参加: 地域や分野で検索し、サイト上で簡単に参加申し込みができます。1日単位の気軽に参加できる活動も重視されている。

- ④東京ポイントとの連携: イベントやボランティア活動に参加することで、東京都独自の「東京ポイント」が付与される仕組み(ボランティア活動は1回500ポイント、趣味活動は1回100ポイント。上限額はなし)。
- ⑤介護分野に特化したものもある: 介護人材不足の課題に対し、介護ボランティアに特化した特設ページも設けられている。
- ⑥サポート体制: 登録を希望する団体に対し、事務局や東京都が出向いてサポートする体制もある。
- ⑦今後の課題: サイトのオープン(今年4月)から間もないため、より多くの高齢者や地域団体にサイトの存在を知ってもらい、情報を充実させることが課題。

▶質疑応答

- ・企業がシニアボランティアを募集する際の利用可能性
 - 活用していただきたいが、営利目的など一部掲載不可となることもある
- ・シルバー人材センターとの連携
 - 進めている。活用しているところも既にある。
- ・地域包括支援センターでの活用
 - 問題ない。参加の受付もサイトでできて、その集約したものを団体は受け取ることができる。

○次回のPJについて

今回のプロジェクトで、高齢者の「活躍したい」という意欲に応えるための、就労と社会参加の両面からの具体的な取り組みが共有された。次回は「活躍できる場を増やす」「活躍できる場を提示する」ための意見交換を行い、目標や計画を行う。

以上